

臨床検査科支部会報

ピペッツVol. 24

2004年3月30日発行

編集委員 清水のぞみ 宮地なぎさ

河内 佳子 山上 宣克

編集発行 川崎医療短期大学同窓会（松丘会）
臨床検査科支部

〒701-0194 倉敷市松島316番地

TEL 086-462-1111（内3025）

印刷 西日本法規出版(株)

川崎医療短大の梅

川崎医療短期大学
臨床検査科副主任
教授 佐藤 彰一

川崎医療短大の学歌にもうたわれているように短大の坂道を登っていくとその両側に梅の木がある。私が当短大に就職が決まった年の3月初めにこの坂道を登って事務室を訪ねたところ職員は一人のみで他の事務職員はおられなかった。そこで当時の臨床検査科の主任教授であった佐々木先生に取り次いでいただきたい旨を告げたところ、『今日は梅見の会で寮の食堂で皆さん集まっておられます。』とのことでした。案内されて寮食堂へいくと川崎祐宣学長（当時の短大は川崎祐宣理事長が短大学長を兼務されていた。）川上亀義先生、佐々木匡秀先生をはじめ全教職員（といっても20数名であったと思う。）が集まって昼食を摂りながら盃を傾けられておられた。その雰囲気は和やかでありましたが、いかに短大を作り上げて行くかを全教職員が話をしていただくと記憶しております。私はといえば、まったく右も左も分からない若造でしたので短大がどのようにして作りあげられていくかは知る由もありませんでした。この日坂道の梅は小さい木でありましたが咲いておりました。

この梅の花が咲く2月から3月には臨床検査技師の国家試験のため3年生は花を愛でるところではないといった感があります。しかし、この梅の花が卒業していく学生の皆さんを祝福しているものと毎年思っております。また、梅の木は卒業生の皆さんを励ますように毎年年輪を重ね成長を続けています。

その後、放射線技術科、医療秘書科が増科されたのを期に階段にそって桜が植えられた。この桜はすでに大きく成長して4月には毎年桜花を楽しませてくれます。梅花が卒業生を祝福しているのに対し、桜花は新入生を祝福しているともいえます。

ともあれ毎年みごとな花を咲かせつづけている梅ではありますが、今年は1月5日には数輪開花していました。これから厳しい寒さがおとずれるが咲く時期に見事な花を咲かせてほしいと思う今日（1月10日）この頃です。

卒業生の皆さん、是非3月初めに梅の花を見に来ませんか。あの3年生の苦しかった時期を思い、今の元気を呼び起こすことができると思います。

音楽療法概説

川崎医療福祉大学リハビリテーション学科
田中 順子

1. 日本の音楽療法の歴史

1995 全日本音楽療法連盟設立

1997 認定音楽療法士誕生

2000 日本音楽療法学会設立（臨床音楽療法協会&日本バイオミュージック学会）

2003年12月現在、会員数6000名

日本の音楽療法は、欧米諸国より40年遅れているとも言われている。

1999年頃から、国内の音楽大学を中心に音楽療法士養成コースを開設するところが増えてきた。

2. 音楽療法の定義

音楽療法とは、身体的ばかりでなく、心理的にも、社会的にもよりよい状態（well-being）の回復、維持、改善などの目的のために、治療者が音楽を意図的に使用することである。

3. 音楽療法の種類

受容的音楽療法（鑑賞）と活動的音楽療法（歌唱、楽器演奏、作曲、身体運動等）に大別できる。

4. 音楽の特性

- ① 知的過程を通らず直接情動へ働きかける
- ② 自己愛を満足させる
- ③ 音を媒介とする
- ④ 情動の直接的発散が可能である
- ⑤ 身体運動を誘発する
- ⑥ 非言語的コミュニケーションが可能である
- ⑦ 一定の法則性を持ちサーカディアンリズムと類似する
- ⑧ 適用範囲が広範で対象が広い

5. 音楽の効果、対象、目的

効果：自律神経系の安定、不安の軽減、疼痛の軽減、内蔵の活性化、免疫機能の向上等に効果があると言われている。

対象：自閉症、発達障害、知的障害、身体障害、精神障害、高齢者、痴呆、ホスピス、健康者等々、幅広い領域を対象に実施されている。

目的：コミュニケーション能力改善、対人関係能力改善、社会的能力の向上、身体能力の改善、気分転換、自己表現、情動の発散、精神の安定化、心理療法の手段、人生の統合、疾病予防等々、様々である。

学会のご案内

日本音楽療法学会 JMTA

〒105-0013 東京都港区浜松町1-20-8

浜松町一丁目ビル6階

TEL 03-5777-6220 FAX 03-5401-0337

※日本音楽療法学会員は、自動的に所屬地域の支部会員となります。

日本音楽療法学会中国支部

〒701-0193 岡山県倉敷市松島288

川崎医療福祉大学 保野研究室内

TEL/FAX 086-463-9060

E-mail jmta-cc@mw.kawasaki-m.ac.jp

H. P. <http://shuttle.kawasaki-m.ac.jp/jmta-cc/>

第4回日本音楽療法学会学術大会

会 期 2004年9月3日（金） 講習会
4日（土）5日（日） 学術大会

会 場 川崎医療福祉大学

会場 H. P. <http://apollon.nta.co.jp/jmta2004/>

秋の学外研修2003

毎年、秋の臨床検査科学生を対象とした学外研修は現在も継続して開催しています。今年度（2003年秋）の学外研修は、平成15年11月1日（土）～2日（日）にコンベックス岡山および岡山テルサで開催された第36回中四国医学検査学会への参加という例年とは一味違った内容でした。この学会は、本学臨床検査科小郷正則助教授（現岡山県臨床衛生検査技師会会長）が学会長を勤めたもので、本学臨床検査科の教員をはじめ、川崎学園の諸施設に所属する多くの臨床検査技師がスタッフとして参加しているものでもありました。この様な背景もあり、今年度は特別に臨床検査科のすべての学生が参加できる様にカリキュラムを調整いたしました。

学会に参加した学生は、様々なシンポジウムや各種セミナー、講演などのレベルの高さに驚きながらも、自らの興味を軸に、アクティブに各会場を巡って聴講していました。

学生時代にこのような機会が数々あるわけではありません。学生一人ひとりが、今回、自身の目指す臨床検査技師のあるべき姿をおぼろげながらも感じ取ってもらえたならば、とても意義深い学外研修であったということが出来るのではないでしょうか。

（臨床検査科 所司 睦文）

近況報告

第3期生

藤井 昌江 (旧姓：山口)



秋に編集担当者から送られてきた原稿依頼を、忙しさにかまけて誰にも送り出せず、結局、自分で書くことにしました。

現在、私は大阪大学大学院歯学研究科の口腔解剖学第二教室で助手をしています。期間限定の就職で2004年4月過ぎには別のことをしているでしょうが、ここで組織学実習と当教室に2ヶ月の応用実習に来る2人の学生の世話を任されています。さらに医学部保健学科でも、留学された病理技術の先生の

穴埋めを頼まれ、わずか4コマですが、細胞診、電顕以外の切り出しから薄切、染色すべてを教えるというハードな日々を過ごしています。歯学部で組織学実習では標本のあまりのひどさに某病院病理部に材料をお願いし、標本を全部作り直しました。上司の助教授もその新しい標本を喜ばれ、新標本の顕微鏡写真と教科書の内容を加えたCD-ROMを作り、学生に配付しました。その効果有って、今年度の学生は熱心に組織実習を行い、とても出来の良い学年との評価を受けています。

基礎配属応用実習は、生化学、生理学、解剖学などの基礎科目が終わったばかりの3年生に課されます。歯学部は医学系とは違う視点で学んでいるようで、血液学、血清学という科目はなく、組織学、生理学などの一部として学ぶのだそうです。免疫組織化学を用い口腔組織を観察する実習を組みましたが、抗体とはと説明するにも戸惑うことになりました。基礎配属の目的は一般の大学の卒論にあたるものを修養期間真ん中の3年で行うという意味と、できれば大学院は当教室に来て欲しいというリクルートの意味を持っています。よって当教室はいかに素晴らしい研究を行っているかをアピールしなければなりません。やっと基礎科目にふれた学生に研究への興味を持たせろと。なんか間違っていないか？と思いつつ、かわいい学生のためチャレンジを続けています。日々、川崎医療短大の実習は本当に秀逸だったとの思いを強くしています。

第5期生

太田 充代 (旧姓：近藤)

5期生のみなさん、学校を卒業して、23年、いかがお過ごしでしょうか。私は現在、岡山市立市民病院の病理検査室で仕事をしています。検査技師の人数は19名、病理検査室は、5期生の舟田さんと私の2名で仕事をしています。今年は、病院の機能評価を受けることとなり、毎日、仕事と片付けに追われています。また数年前より、耳鼻科、眼科、採血室、腹部エコー、心エコーへと、各部屋より曜日を決めて臨床支援に出ています。コンピューターも入り、化学、血液、輸血、一般検査の結果は、コン



ピューター入力になり、オーダーリングとなりました。当直が月に2回ありますが、その時には結果を入力しています。ふだん使い慣れていないので、大変苦勞をしています。仕事が忙しく有休がなかなか取れない現状です。検査技師の人数が年々減らされていく傾向にあり、これからどのようにして検査技師として生き残っていったら良いのかを考えさせられます。益々生活がしにくくなっていく今日この頃ですが、私も3人の子供を育てています。高3、中3、小6の全員男の子です。家族は2世帯同居で、7人と2ヶ月のメスの柴犬1びきの大家族です。町内は50軒ほどありますが、子供の数がどんどん減少して、現在では、小学校の子供は男子5人のみで、女子は1人もいなくなりました。旗当番も5日に1回は回って来ています。4月からは旗当番をしなくてすむので、もうひと頑張りと思っています。仕事に、子育てに、と忙しい毎日を過ごしていますが、健康第一と思っています。またお会いできる日を楽しみにしています。

第9期生

目賀実千代 (旧姓：山口)

やっと来たなあという感じがすね。話したいことは山ほどあるのですが、そのうちのひとつでやっぱり山の話をする。(なんのこっちゃあ)

短大卒業後、川崎医大に5年お世話になり、10ヶ月ほどぶらぶらしていたら吉永町立病院という岡山県の山陽本線の東から二つ目の駅にあるところの病院から一月に「すぐ来てほしい」



といわれ、就職しました。技師は当時二人でしたが、今では三人に増えなんとかやっています。地方の病院なので、患者さんは毎日ほとんど同じ顔ぶれだったりするのですが、それが本当に素晴らしいなあと感じたことがありました。

毎年夏休みに吉永町では小学5、6年生を富士登山に連れて行ってくれるのですが、今年は規定の人数に満たないということで、子供たちだけのツアーがなくなりました。5年生の息子も参加の予定でしたが、行けなくなったのに、残念そうなのは親の私だけのようでした。ところが、吉永町の山の会(大人40代~70代)のリーダーでもある看護婦さんから親子で一緒に行かないかと、誘ってくれたのです。日ごろ愛情不足の息子もこれには乗り気になってくれ、行ってきました。

富士山までのバスは行きも帰りもパンクでひどく遅れたし、登山自体も8合目で高山病にかかり（もちろん息子）頂上までは登れませんでした。私たち親子にとってはどれも初めての経験で愉快でした。（不謹慎？）普段は憎たらしい息子もこのツアーにおいてはとても素直でかわいい息子に変身しました。私も下界のしがらみからの開放感からか優しいお母さんだったかもしれません。

さっきも紹介した山の会のリーダーは実は前吉永町長の奥さんだった方でそれはもうチャームングで、頼りがいのある人です。リーダーとして道案内はもちろんのこと、私の息子の先に登りたいというわがままにも楽々応じてくれ、助かりました。第一、ツアーの大半は60代後半から70、80代の方ばかりで男、女が半々、そう易々とは登れません。しかもほとんど高山植物のない火山灰だらけの山道ですから面白みはないし、なかなか進まない気がして疲れます。そんな時やってくれるんです、おっちゃんたちとこのリーダーとがかけあい漫才を。段差があって、普通口数もすくなくなるような、もっとも苦しいところでやってくれるんです。もうおかしくて、苦しいのを忘れてしまいます。すごいなあ。自分たちのほうが私なんかよりよっぽど苦しいはずなのに他人を笑わすなんて・・・。

その後、病院で仕事をしていると、何度も声をかけられるのです。そうそう、一緒に登った人たちはうちの病院の患者様だったのです。つまり、あのリーダーは公私共に地域のみなさんのホームナースとして活躍しておられたわけです。私はそこに、地方の病院の理想郷、めざすべき道を見たような気がしました。

富士登山の最大の目的はご来光です。その日はたまたまてっぺんよりも8合目あたりのほうが雲に隠れることなく視界が開けてとてもすばらしかったです。飛行機から見るのとはまた、ちがってとても幻想的ですばらしかったです。この登った者でしかわからない感動を登ったことのない方は是非一度味わってみてはいかがですか？

すっかり、このリーダーのとりこになった私は次に蒜山三山縦走、那岐山などにもついていき、楽しい毎日を送っています。一緒に山登りしませんか？最低3人から出発しています。時間とタイミングが合えばいつでも行けるよ！（0869）84-2120内線29

吉永町立病院検査室 めがっち まで連絡してください▽

私の17年

第12期生

則長 由美 (旧姓：永井)

とうとう来ましたか、ピペッツの原稿依頼が。近況報告といわれてもあまり書く事がないので、短大を卒業してからの歩みを書かせていただきます。

臨床検査技師として働いたのは約5年間で、最初の4年間は、ある科を専門にした個人病院で働きました。患者さんがものすごく多くて、それはそれは忙しい毎日でした。生理機能検査を主として、特殊な検査なども経験させていただきました。検査もさることながら、患者さんへの対応や、周りのスタッフのみなさんとの関係の難しさに悩む事も多く、同じ検査室の人達にはげましてもらった事は数知れません。悩んだり、泣いたり、笑ったりいろいろありましたが、私の中では、独身時代の中で最も充実し



た日々でした。その当時一緒に働いて下さった検査室のみなさん、本当にお世話になりました。

その後は、別の病院で少しの間働き、結婚を機に道後温泉で有名な松山に移り住み、丸11年がたちました。子供も2人生まれ、子育てに専念していましたが、2人とも小学生になり手がかからなくなったので、今はパートに出ています。臨床検査とは全く関係ない、私立の女子大学で、食堂のオバチャンをしています。毎日自転車通勤し、エプロンを身に

つけ、白い長靴をはき、せっせと働いております。地味な仕事ではありますが、今どきの女子大生を相手に悪戦苦闘するのも結構楽しいものです。

とりあえず、しばらくはこんな生活が続きそうです。

そう臨床検査技師には戻れない。ついていけない。でも、幸せです。

何をかくそう、私は体育会系です!?

第14期生

戸田 聡江 (旧姓：小山)



皆様お元気でいらっしゃいますか。私は2003年11月、初めて5kmのマラソンを体験しました。事の発端は、折々に訓事を頂戴していた同検査室のG技師が高脂血症、体脂肪対策のためジョギングをされており、ある時5kmのマラソンに出場、すばらしい充実感を体験できたというお話をうかがいました。私も調子にのり、主人も山陽町マラソンに出場したことが、などと口をすべらしてしまい、主人をも巻き込み5kmマラソンに挑戦することとなって

しまったのです。

35歳2児の母、今からのマラソンは大変キツイものがある上、若い頃から長距離は大の苦手、学生時代の持久走は常にビリでした。そんな私が一念発起！というよりあきらめの境地といましようか、暑さもやわらいだ9月下旬、やっと練習を始めました。しかし、案の定です。50m程走っただけで息切れ状態、とても5kmなんて、と思いました。でも、こんな私でも体は進化するのですね、11月に入る頃には5km走れるようになっていました。

さて当日、合図と共に老若男女一斉にスタート。明らかに私よりも先輩の女性、白髪のおじい様、どの方も軽快に走ってゆかれます。対する私は、どうしてこんな苦しい思いをしなければならないのか、もう二度と走るまい、などと考えながら走っていたのですが、沿道の方々や折り返してきたG技師、

主人に励まされ最後の直線にさしかかった時、少しの恥ずかしさと大勢の方の声援がとても嬉しく感じられ、走り切った頃には充実感と爽快感に変化しており、マラソンとは結構良いものだなと思えるようになっていました。もったいないから継続しよう、と思っていましたが、あれから2、3ヵ月全く走っておりません。やっぱり“私”です。老いを感じる今日この頃、皆様も何か始めてみては？

前略、15期生のみなさん



第15期生

小淵 喜枝 (旧姓：藤原)

2004年を迎え年女、年男の15期生のみなさんいかがお過ごしですか。

私は卒業後、財団法人倉敷成人病センターに就職し、病理部で病理・細胞診を担当しています。同期では市さんと安田さんが同病院に就職しましたが、二人とも寿退社され寂しい限りです。私も数年前に結婚し、今年2才になる息子と三人で芸文館の近くに暮らしています。職場まで自転車で5分、保育園も病院に隣接しており働く母としては便利な環境で

ありがたいと思いつつも、正直ちょっとしんどいというのが本音でしょうか。手際よく主婦業をこなすためと言えは聞こえは良いのかもしれませんが、先日念願の食器洗い乾燥機なるモノをゲットし、ほくそ笑んでいる今日この頃です。そう言えば、学生時代にたくさんの試験管やチップを洗ったことを思い出します。朝早くから夜遅くまで残ってやった実習は大変だったけど、過ぎ去ってしまうと“懐かしい思い出”です。また回転している遠心機の蓋を開け、担任の小郷先生に大声で怒られたことを遠心機の前立つ度にふと思い出します。学生時代、叱られることはとてもいやなことでしたが、社会人になって、それもいい大人になると叱ってくれる人はなくなるものですね。当時、しっかり叱って頂いた多くの先生や技師さんの方々には今さらながら感謝の念が絶えません。それから忘れられないのが下田先生の「本をたくさん読んで“自己啓発”しなさい」という言葉。今も机の上には夫から譲り受けた養老孟司のバカの壁がありますが、その前にこの原稿をやっつけなければとにらめっこ状態です。おっと、今度は隣の部屋でお昼寝していた息子の泣き声が…。〈一時休戦〉、〈抱っこして〉復活!! この様に今では、なかなか思うように事は運びません。えーっと、そう、読書も大切なことなのですが、最近では子供に教えてもらうことも多くなりました。脚でTV台の扉を開ける息子の姿に、オヨヨ！あれは私の姿!?と愕然とさせられる。それでも楽しい発見の毎日を過ごしています。学生時代から変わらない“おとほけな私”ですが、今では子育てと仕事に奮闘しております。みなさんは、それぞれの時間を経てどのようにされているのでしょうか。年女と年男が集う同窓会っていいかも。

第19期生

稲富 明子 (旧姓：宮原)

みなさま、ごきげんよう (叶姉妹風に♡)

いかがお過ごしでしょうか？

私は卒業して10回目の冬を迎えようとしています。振り返ってみると、個人的には結婚や出産を経験し、ドタバタな10年間でした。

なんとなく結婚してみたら、なんとなく妊娠したのですが、産前休暇2日目に破水してしまい、早産のため長男は1ヶ月間新生児ICUに入院するはめになりました。そうして小さいけど元気な長男が6



~7ヶ月になった頃今度はびっくりしたことに一卵性の双子を授かってしまい、初期、後期あわせて2ヶ月間の点滴につながればなしの入院生活を送り、これまた早産を経験したのであります。3人とも小さく出てきたわりにはとても元気で保育園で頑張っています。特に自家製クローン人間の双子の女の子達はパワフルで長男は毎日のように泣かされています。年子だからしょうがないと思うものかわいそうなお兄ちゃんです。

仕事の話に変わりますが、卒業して最初の1年間は個人病院に勤務していました。でも「こげな安か給料ばもらうためにあげなつらか3年間ば頑張ったとじゃなか！」と思い、“ダメもと”で福岡県職員の試験を受けたらまんまと合格し、8年間県立病院に勤務、今年の春からは保健所に異動して、食品、環境、感染症などの検査をしています。

仕事をしながらの3つ子のような子ども達の子育ては時間が足りず、毎日大戦争ですが、仕事があって保育園に預けれるからこそ、育児ノイローゼにならずに生活できているんだと強く感じています。

今度の冬が終わる頃、4人目の子がぽんっと出てくる予定です。3才、2才(双子)、0才の子ども達の成長を楽しみにこれから先もずっとずっと願わくば定年まで仕事を続けていきたいと思っています。ファイト！いっばあーっ!!おー!!

JA 広島総合病院 臨床研究検査科

第22期生 池部 晃司

このたび期生を代表して近況報告せよと、同期の悪女からご命令が下りましたので、素直にそれに従い、報告させていただきます。

私は現在世界遺産としても名高い安芸の宮島にほど近い総合病院で働いています。主要業務は感染症(細菌・輸血検査)で、日々バイ菌君達と格闘しております。私生活面では3年前に当院の看護師とめでたく結婚し、仲むつまじく幸せに暮らしています。幸か不幸か、子供はまだいないため、夫婦そろっての外出が多く、金が湯水のように流れゆく、そんな毎日を送っています。が、二人ともいつまでも若くはない、そう実感できる年齢に近づきつつあるのも事実で、・・・と当初このような書き始めを予定していたのですが、一部文章を変更せざるを得ない状況になりましたので、またここから語らせていた

だきます。

私は現在世界遺産としても……幸せに暮らしています。幸か不幸か、このたび妻が妊娠いたしました。来夏（7月8日予定日）には我が家に天使が舞い降りている予定でございます。元来子供には興味がなく、子を持つという願望の薄い自分が妻からの妊娠の報告に少し喜んでいることに正直驚いています。なにぶん初めての妊娠（私じゃない）であり、あたふたと同時にちょっとドキドキしております。また今後しばらくは大好きな旅行や外食は禁止だろうなという厳しい現実への漠然とした不安と恐怖に怯えています。以上、私の近況報告でした。

さて話は変わりますが、22期の同期（約95%が女性）連中も皆次々に結婚または出産して、良き妻または良き母として幸せに暮らしています。今でも時々電話やメールでは連絡を取り合っていますが、なぜか私が常に連絡を取り合っている連中はいまだ春の訪れを待ちわびている状況です。どうか神様、彼女らに愛を！と日々願うもその思いはいまだ叶った試しはありません。というわけでこのように広島就職組は日夜愛に飢えながらも慎ましく生き抜いております。

「同期の方で広島へお越しの際はぜひぜひ広島の良き所を案内させていただきますのでご一報下さい。」（北岡談）

連絡先は北岡里美、畑岡由美までどうぞ。

追伸、愛媛の案内は芝一枝までどうぞ。

第23期生

佐藤麻里恵（旧姓：向井）

就職してからあっという間に月日が経ち、なかなか同窓会を開催する機会もないまま、6年目が終わろうとしています。そろそろ、23期生の皆に会いたくなってきた頃ですが、皆さん元気でお過ごしですか？

岡山に居る同期生には、時々会う機会がありますが、就職当時に比べると集まる機会が減り、11月上旬、数ヶ月ぶりに数人で我が家に集まって鍋を囲み、お互いの近況報告と学生時代の話で盛り上がり



ました。久しぶりでしたが、会えば話に尽きず、時間が経つのを忘れてしまいます。

遠くの友人とも、年に1、2回集まっては温泉に行ったりキャンプに行ったりしていましたが、ここ2年程それを実現せず、会うのは誰かの結婚式だけになってしまい、少し寂しく思います。けれど、いつ会っても学生時代と変わらない雰囲気に、いつもほっとさせられます。

今のところ、同窓会の予定はないようですが、また皆に会えるのを楽しみにしています。

第27期生

田中いくみ



就職してから早や、1年7ヶ月がたちました。ふり返ってみると、ものすごくめまぐるしくすぎさったように思います。右も左も分からない中、先輩方の御指導の元に一生懸命仕事を覚えようとがんばってきました。色々失敗もしてきましたが、やっと仕事に慣れてきたように感じます。

私が就職した所は、人間ドックや定期健康診断などを受ける健診センターです。普通の病院とは違い、健診車に乗り、外に出て色々な事業所を周ることもあります。近い所から遠

い所、本当に様々な所に行きます。遠い所では、家を6時前など朝早くに出勤したり、時には宿泊して広島・鳥取・兵庫など県外にも行ったりすることがあります。外に出て仕事をすると、様々な職種の人に出会ったり色々な所に行けたりと、刺激があり本当に楽しいです。その反面外に出ている時には仕事を1人でまかされているので、自分の行動・発言・判断・ハプニングへの対応などの責任が大きくなってきますが、その分とてもやりがいがあります。

私は、人と関わりながら仕事をしたかったので、今の仕事は、やりがいも刺激もあり、とても楽しいです。楽しみながら仕事ができることは幸せだな。と感じています。これからも人と人との出会いを大切に、そして日々研鑽を積み、成長していきたいと思えます。

第19期生同窓会

第19期生 成富 真理



卒業後、19期生で、はじめて同窓会を開催しました。子育てや仕事で忙しい中、15人もの仲間が集まりました。会場に1人また1人と入ってくるたびに、キャーッと歓声があがり、お互いに「かわってないねー」を連発しあっていました。

10年ぶりでしたが、皆あっという間に昔にもどりにぎやかに、さわがしく、楽しい同窓会になりました。またの再会を誓い、同窓会を終了しました。（平成15年11月1日、倉敷市「夢路」にて）

21期生同窓会の報告

第21期生 磯部 直美



2003年9月14日（日）まだまだ残暑の厳しいなか、21期生同窓会を行いました。

岡山駅の近くに店を予約し、48名全員に『同窓会開催のお知らせ』を通知したところ、現在、県外で暮らしている卒業生が半分以上いるにもかかわらず、26名という大勢の人から出席の返事が返ってきました。当日は3連休の中日ともあって、東は千葉から西は長崎まで、遠くから参加してくれました。事情があって出

席できないみんなも「久しぶりに会いたかったけど、残念」と本当に残念がってくれて、卒業して7年が過ぎても、苦楽を共にしてきた仲間はいつまでも仲間だなと思いました。

当日、会が始まると人が集まるにつれてお店のなかが騒がしくなり、始まって30分は「久しぶりー！」と抱きついて再会を懐かしみ、みんな席に着こうとはしませんでした。約7年ぶりの再会だったので、どんなに変わっているか楽しみにしていたのですが、意外と変わってなく、「変わらないね」と笑顔で話しをしているとまるでそこは8年前の教室にタイムスリップしたようでした。少し落ち着いたところで、現状報告を含めて今まで結婚した同期18名の報告をしました。30才を前にしてまだ半分にも達していないのが気に掛かりましたが、出席している人には新しい姓と子供のことなどを報告してもらいました。みんなからは質問の嵐です。やはりみんなこの事が一番気になっていたらしく、急に静かになり耳を傾けていました。ママになった人達も今日だけはママ業をお休みして独身時代に戻ります！と言ってかわいい子供たちの写真を肴にお酒を飲みました。出席できなかった人の中で、お隣兵庫県で結婚式を挙げた人もいて、それに出席した人がその足で岡山へ来てくれたので、撮れたてホヤホヤのドレス姿の写真を見せてもらうことができました。この場をお借りしてメッセージを言わせて下さい。

『おめでとう！みんなで幸せを祈っています！』その他に、わざわざ福井から名物“羽二重餅”をお土産に持ってきてくれたので、みんなで食べました。とっても美味しかったです！

あっという間に一次会は終わってしまいましたが、まだまだつる話があってなかなか家路に着くことはできませんでした。「絶対にまた同窓会をしよう」「今度は一泊で」などと話が盛り上がり、また会うことを約束しました。今回は参加できなかった人も今度は必ず会いましょうね！

（岡山市「Patata」にて）